

## ASEAN グローバルプログラム における活動

村松 慶 祐  
Keisuke MURAMATSU  
数理情報学科 2年

### 1. はじめに

2017年8月29日から9月7日まで、ベトナムのハイノで約5日間、シンガポールで約4日間、現地の日経企業の見学、ハイノ工業大学学生とのPBL、南洋理工大学の見学、現地で働いている日本人の方との交流会と講演を主とした ASEAN グローバルプログラムに参加した。プログラムの日程を表1に示す。本稿ではプログラムへの参加の目的と、その中から特に PBL を大きく取り上げ、そこから学んだ事、プログラムを終えての感想とそれを踏まえこれからの目標などについて記す。

表1 スケジュール

8月28日	火	ハイノ到着, オリエンテーション
8月30日	水	ハイノの企業見学
8月31日	木	ハイノ工業大学生との PBL
9月1日	金	ハイノ工業大学生との PBL
9月2日	土	現地観光
9月3日	日	シンガポールへ移動
9月4日	月	南洋理工大学見学
9月5日	火	シンガポールのビジネスパーソンとの交流
9月6日	水	自由時間
9月7日	木	帰国

### 2. 参加目的

ベトナム、シンガポールというのは近年のアジア圏の中でも高い GDP を誇り、今まさに発展している途中の国であると感じている。それに比べ近年の日本はベトナムとシンガポールに比べ、GDP も低く、不況が続いており先進国であるが成長している

国とは言えない。だがそれは数字でしか見たことがなく、実際に現地に行って見てみて、日本との違いを見る事、そしてその違いと現地で働いている日本人の方の話を比べ、これから生活していく中で使えるような、将来役に立つような事を吸収することが目的とした。

### 3. 研修の内容

ここでは特に 30 日、31 日に行ったハイノ工業大学生との PBL を中心に書く。テーマは、「ユニクロの商品をベトナムの若者をターゲットとし、どう売り込むか」であった。その第一段階として、どのような商品を売り込むのがよいか、研修前に班のメンバーと相談した。そこでは、現地の気候などから相談した結果、薄めの肌着を売る方法を考える、という結論に至った。しかし宣伝方法の方針などはまともならず、現地の人に聞くこととなった。当日、現地で二人のベトナム人大学生と合流した。事前に相談した内容を元に、ベトナムの方々がどんなものを楽しんでいるか、どんな所の宣伝を見るかなどを確認するため、現地の若者を対象にアンケートを実施することとなった。そのアンケートを作る元として、二人にいくつかの質問をした。その二人にまず、SNSは何を使っているかを聞いた。日本では Twitter が主流であるが、ベトナムではそうではなく、Facebook が主流であることが分かった。そうした事などから、機能性の高い服はどうか、どこで服の情報を収集しているかなどをアンケートに取った。その日は大学構内と、近くの池の周りでアンケートを 250 人ほどから集めることができた。夕方、現地の学生と別れてホテルに戻り、教授方などにどのようなアンケートをどのような目的で取ったか、などを説明し、アドバイスをもらった。その夜にその日集めたアンケートを集計し、データにまとめ、教授方から頂いたアドバイスを元に、どのようなデータが必要かを相談し、まとめた。次の日、その内容を現地の学生に伝え、足りない所、足したほうが良い質問をまとめ、新たに 150 人ほどアンケー

トを取った。内容としては、着ている服はどのような色や柄が多いか、服に機能性（風通しのよさや型崩れしにくいなど）などである。これにより、一日目のデータとあわせることで、自分たちがどのように販売するかが決まり、おおきな紙にグラフなどを書き、まとめた。それを発表し、現地の人とのPBLは終了した。その夜、日本人ビジネスパーソンの方二名をホテルに招いて、日本語での発表会が行われた。そこでは一度とったデータを見直し、自分たちの考えや、日本目線としての根拠、感想などをのべた。昼間、現地の人とは見つけられなかった発見もあり、修正するところ、自分たちが伝えたい所などもすべて考え直した。そうして、この2日間は終了した。

#### 4. 感想

まず、私が一番初めに難しいと思ったのが言語の壁であった。現地の方はしっかりと英語が聞いて話せていたが自分たちはうまく言葉に出来なかったりとコミュニケーションをとるのが難しかった。なんとか身振り手振り、筆談などで話していくと打ち解けていくのが肌で感じられた。学生などからアンケートを取る際も同様であったが、フォローしてもらったり、コツを教えてもらったりとし、うまく協力できたのではないと思う。そして現地の人との発表では自分たちの班だけではなく、どの班の現地の人でも英語を話しなれていた。一番驚いたのは原稿を持っていなかった事だ。持っていないにも関わらず、すらすらと伝えたいことをしっかりと伝えており、レベルの差を感じた。そして最後のホテルでの発表、準備時間がとても短く、各自やれる事を手当たりしだいやる、といった感じであった。考察などは、各自の持っている知識を持ち寄り、日本の目線

から話すようにした。一度まとめたアンケートも、もう一度別の視点から見直すなどすると、新たな発見があったりと、先の発表とは内容が異なった。

#### 5. まとめ

この2日間で特に印象に残り、自分の中で改善したいと思った事は、日本との英語力の差、限られた時間内でどのようにして効率をよくし協力するか、別視点からデータを見ることの大切さ、発表などで原稿を見て話すのではなく、自分の言葉で話すこと、である。まず英語力の向上のためには、話す練習や聞く練習を中心にすべきなので、そのようなことが練習できる場を探し、自分から話そうと努力することである。また、チームで動くことについては、物事を行うとき、どのようにすれば時間が短くなるかや、数名で作業するときなど、ただ単純にやるのではなく、どのようにすれば早く終わるのかなどを何度も考えて周りの人と相談しながら行動する。別視点からデータを見る大切さは、一度見たものでも考え方を変えてもう一度見たり、他人に感想を求めたりと、第三者を大切にすると考える。自分の言葉で話す事は、人と話す時など、自分の思ったことをそのまま言うのではなく、もう少し詳しく言ってみたりして、話しながら考える、ということの練習が大切であると考え。以上の4つが印象に残り、自分の中で変えたいと思う事であった。今回のプログラムはそのきっかけとなったに過ぎないので、これからの大学生活で、今回の経験をどう生かすかがこれからの課題である。その中で印象に残った事から、自分を変えていくきっかけにしやすいと感じた。なのでこれからはこの経験を思い出しつつ、自分が成長できるよう、まずはこの4つを中心にして日々をすごしていきたいと思う。